



リプレイパート

虚空のミソロジーリプレイ 〳報復行脚〳

◆紹介

登場PC

●PC1 二階堂 力

設定…男 23歳 フリーター

クラス…覚醒者 レベル 4

属性…混沌・中庸

生命力 6 魔力 2

特技…禁忌、逸話、物語、裏社会、分解、怪力

スキル…起源覚醒「全開」、覚醒攻撃、神性、一足の間合い

秘儀…根源接続(凶)

●PC2 佐藤 大助

設定 男 24歳 無職

クラス 異能者 レベル 4

属性 混沌・悪

生命力 4 魔力 3

特技…混沌、禁忌、電子、潜伏、魔眼、言霊

スキル…絶望の魔眼、念動、多重詠唱、高速詠唱

秘儀…根源接続（殺）

●PC3 アビゲイル・デーモン（通称アビ）

設定 女 19歳 大学生

クラス 魔術師 レベル 4

属性 中立・中庸

生命力 3 魔力 5

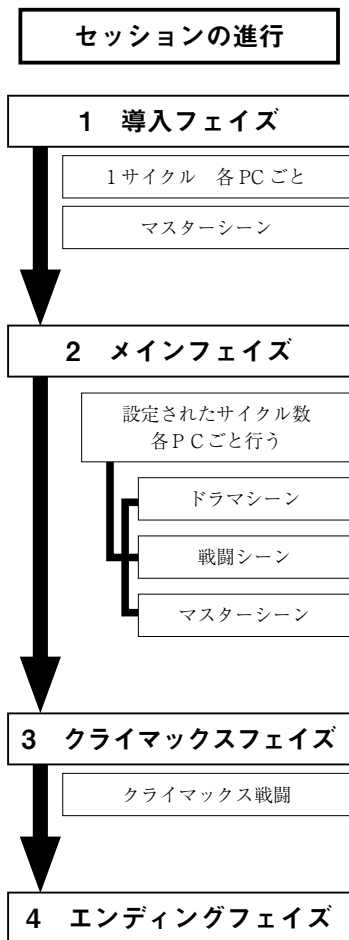
特技…混沌、加速、異界、組立、魔眼、禁呪

スキル…魔術攻撃、多重詠唱、人形作り、高速詠唱

秘儀…固有結界（術）、幸運A

導入フェイズ

GM それではセッション開始。
プレイヤーA 今日も協力プレイ（仮）なはず！
GM 今日はごちゃまぜ対戦あります。時代は現代、場所は23区内東京湾の海岸線沿い、某ダ○シユ海岸まではいきませんが。
プレイヤーB そこは川崎にまで行っちゃうからね。



GM というわけでオープニングシーンです。

……深夜、繁華街にある地下のバー、そこに幾多の肉片が散らばっている。床には血が広がり、椅子に座るは頭部がなくなつた肉体。

それらを前に立つ男が一人。ただニヤリと笑い、その手は血で染まっている。

翌日、テレビのニュースで繁華街の殺人事件が報道される。地下のバーで複数の人間が殺される猟奇殺人事件が起きた。殺された者たちは「マッドラット」という半グレ集団でもあつたと説明され、グループ間の抗争か？ といった憶測の下に騒ぎとなつていた。

◆導入 一階堂

GM と言うわけでキャラクター紹介&導入にいきましょう。プレイヤーCさんから。
プレイヤーC 名前は二開堂力、にかどうつとむクラスは覚醒者。男の23歳、表の職業はフリーター。

GM 君はあるグループの所属員を探しをしています。その目的を知っているという人物に会いに行きました。その人はコンビニの制服を着ていますが、どこか人を小馬鹿にした態度で接します。君が持つ手掛かりを見て、

コンビニ店員 「あー、もしかして、あいつらのことかな？ やばいから身を隠すとか言っていた

ような気がする。どこに行ったかは知らないよ。うーん、何かあれば思い出すかもしれないな。何かきっかけがあれば、わかるだろう

と、金銭を要求します。

プレイヤーB これは、ファンタジーでお馴染みの袖の下！

二階堂 「なるほどなるほど、こいつが欲しいのだな！」と、ぶん殴ります「言えーっ！」。

コンビニ店員 「ぐわあーっ！」

二階堂 「言えーっ！」

コンビニ店員 「ぐわあーっ！」

二階堂 「言えーっ！」

コンビニ店員 「ぐわあーっ！」

.....

プレイヤーA 雰囲気が変わった。

プレイヤーB ここはネオサイタマ？ ネオカワサキですかね！

◆導入
佐藤

GM それでは次、Aさん。

プレイヤーA クラスは異能者、キャラクター名は佐藤大助^{さとうだいすけ}、年齢24歳男、表の職業は無職です。

GM 君は都内のある雑居ビルで仕事の説明を受けていました。

佐藤 仕事するの俺？

GM/NPC女 「無職だろ君、暮らしていくには銭が必要だというくらい知っておいたほうがいいぞ、私が言うのもなんだが。そして君は紹介する仕事にうってつけの力を持っている」と、二十代半ばから後半の女が言います。名はアオザキ・トーコ、表向きは人形作りを生業とするアーティストで、時折表に出せない仕事を斡旋しています。

事務所ではTVが乱雑に積み上げられ、そこでニュースが流れる。

ニュースキャスター 「新たなニュースです。〇〇地区で人体が破壊される猟奇殺人事件が起きました。〇〇繁華街と同様の手口で、警察は関連があるとみて捜査をしています……」

トーコ 「死体は殴られ、粉碎されたような状況だったそうだ……。ま、既に情報はこちらに来ていてね。その殺された人間っていうのが、最近壊滅した半グレ集団『マッドドラット』に関係していたらしい。世間様的には半グレ同士の抗争か？ と、最初はたかを括っていたようだ。が、人間が

殴られただけで破裂するか？ 普通は不可能だ。犯人は『異能者』かそれに類する者——加えて、殺しの範囲が広がっている。早急に止めたいが異能者の可能性が高く危なっかしいので、私のところに秘密裏に来た。『あれ』を止めてくれと——だから君に仕事をまかせる」

佐藤 「えー、つまりあれですね。俺は引きこもり！ そして何かあってもすぐに切り捨てられると！ だから俺を選んだんですねトーコさん！」

トーコ 「いやいやいや、君は異能者だし！ 指先一つぶっさせば人間くらい爆裂させるでしょうに（笑）」

佐藤 「それ違う！ 俺そんな肉体派じゃないです」

GM そんなわけで、資料が渡されます。繁華街の地下バー、カラオケ店の駐車場、コンビニの裏手、それぞれで死体が発見されました。

佐藤 「あれ、もう3件も発生している？ ちなみにこの件で俺のところ以外で動いている情報はありますか？」

トーコ 「今のところないね。もしかしたら警察がほかにも準備しているかもしれない。また、いわゆる半グレ集団が仕返しにとね。普通の人間ならまず返り討ちだが」

佐藤 「はいわかりましたよ」

◆導入
アビ

GM それではBさん。

プレイヤーB クラスは魔術師で、名前はアビゲイル・デーモンです。表の職業は学生、女性。

佐藤 アビゲイル？

GM 何かのロックバンドやっているとかな？

アビ 黒魔術やってますから！ 本名ですよ！

佐藤 これどう見ても職業上の名前だよね！

GM そのような君にメールが届きます。高校時代の後輩からで、彼は調子のいいある意味素行の悪い学生です。「先輩、お久しぶりです。先輩っていろいろとできましたよね。だからお願いです。かくまってください！」内容からはどこかおびえ、追われているような印象を受けます。さらに今いる場所も教えてくれます。

アビ それは会って確認したいですね。でも私は大学生で匿う場所を知っていますかね。

佐藤 遠洋漁業とか？

アビ それは安全かもしれませんが（笑）、とにかく会って安全な場所を考えてみましょう。待ち合わせの場所を送ります。

GM それぞれ紹介が終わったところで特異点の配置です。

「場所…雑居ビル」 これはトーコお姉さんがいるところです。

「場所…繁華街」 はじめの事件が起きたあたりです。

「場所…港の倉庫棟」 とりあえず怪しい場所。

メインフェイス 第1サイクル

◆1サイクル 佐藤

佐藤 まずは繁華街の事件現場の検証をやりましょう。シーン表を振り、9です。

シーン9…古いマンション・団地街の夜。静かな、そして誰も通らない夜の道に佇む。街灯だけがその姿を映す。

GM この場合、繁華街の裏通りですね。

佐藤 となると、こういった裏通りを使う可能性は高いだろうから……魔眼を使ってそのあたりをぶらぶらと歩きます。何らかの魔力的な痕跡がないか？

佐藤は「場所…繁華街」の秘密を探ります。シーンの行動は情報判定。任意の特技で〈魔眼〉を指定、判定は成功します。

情報獲得…佐藤、繁華街の【秘密】を獲得。

秘密…かつて半グレ集団「マッドラット」が根城にしていたバーがあるが、立ち入り禁止となっている。これを見た者はゴースト×2と遭遇する。〈静止〉、〈潜伏〉、〈霊魂〉のいずれかの特技で判定し、成功しない限り戦闘になる。

GM では書かれてある通り判定を！

佐藤 〈潜伏〉があるのでこれで判定します……成功しました。

GM 君は現場近くまで来ると、声が聞こえます。

浮遊する零体 「痛い、痛いよ！俺たちはただ楽しくクスリをやったただけなのに！」

GM 能力者なら分かるのですが、そこにはゴーストが漂っています。

佐藤 なんとなくわかってきた。

ゴースト 「なあ、俺たち痛いんだけど、わかるだろう？」

佐藤 「早く成仏しろよ」

ゴースト 「こんなにも語りかけているのに、なんで誰もわかってくれないんだ」

佐藤 「いいか、天国は気持ちいいらしいぞ。こんなところよりもな」

ゴースト 「天国はクスリで散々体験したよ！」

佐藤 「天国に行けばクスリもいっぱいあるらしいんだが！ なかったら天国じゃないだろ」

ゴースト 「そうなのか！ そいつはいい！ だったらクスリを、クスリをもっとくれ！」

佐藤 「だから、天国へ！」

ゴースト 「だからクスリを！」

以下ループ数回。

佐藤 「ダメだこりゃ」と言って立ち去ります。

GM それでは人物欄にゴーストと記入しておいてください。

佐藤 書くのかよ！

◆1サイクル 二階堂

二階堂 では次、私が港の倉庫棟を調査します。シーン表は11。

シーン11…街の近くにある廃工場。雨、もしくは霧が立ち込める中、そこに相応しい非日常の存在が立っている。

GM 君が立っているわけだね。海岸沿いにある倉庫、君はそこを調査している。

二階堂 「港の倉庫棟」の秘密を調査します。特技〈裏社会〉で……5、成功。

情報獲得…二階堂、港の倉庫棟の【秘密】を獲得。

秘密…ある倉庫は人が潜み、隠れる細工がほどこされている。ちょうどここに隠れていた人物がいる。

GM 二階堂がこの【秘密】を見ると人物が一人出てきます。

関連人物「ムトウ」 10代後半くらいの男。眼鏡をかけ、倉庫棟にいる作業員の服と帽子をかぶり、やつれている印象を受ける。

ムトウ 「あんた誰だい？」

二階堂 どこかで見た覚えある人？

GM あったような、ないような。頭の片隅にひっかかるが思い出せない。

二階堂 「お前、ここで何をしている？」

ムトウ 「俺は倉庫の管理人だよ」

二階堂 それでは少しカマをかけてみよう「では、表で倒れている人は誰だ？」

ムトウ 「え！ 誰が！」外を見てきて「だれも倒れてないじゃないか！ 何なんだ君は」すこし怯えている。

二階堂 かといってこれ以上何かこじつけるのも難しい。ここは引き下がろう。

GM (導入時はえらく強引だったのに)

二階堂 では人物欄に「ムトウ」を入れて終わり。

◆1サイクル アビ

アビ 倉庫棟のムトウさんの秘密を覗きたいので、ドラマシーンを選択します。シーンの表を振って6。

シーン6 …都市間に流れる大きな川、そこにかかる巨大な橋。都市のシンボルマークとも言われるそこに立つ。

GM 君が倉庫棟に行こうとしていたとき、後輩からメールが来ます。「倉庫棟と街の間にある

〇〇橋で落ち合いましたよ」

アビ 了解しました。

GM では橋で後輩と会いますと……

ムトウ 「先輩ー！」慌てた様子で駆け寄ってきます。服装はラフな若者風で帽子と眼鏡はかけていない。以前は明るい後輩だったが、今見た彼の雰囲気はだいぶ違う。

アビ 「ムトウくん久しぶり。なんか雰囲気変わった？」

※ ここでアビの後輩がムトウであることが分かります。

ムトウ 「はい、だいぶ変わりました（慌てている）。今やばいので助けてください！」

アビ 「大丈夫かい、警察にいった方がいいんじゃないか？」

ムトウ 「警察はダメなんです！でも先輩なら何とかしてくれるんじゃないかと思って、デモンだけに！」

アビ 「それただの名前だから！えー、どうしようかな？私はただの大学生だから安全な場所なんて分からないし。安全な場所安全な場所……ムトウ君、お金持ってる？」

ムトウ 「お金ですか？五千円位なら」

アビ 「よくそんなお金で暮らせるね！」GM、ムトウ君は仲良かったんですって？

GM 高校時代に君がやっていたロックバンドの横で粹がっていた後輩。

アビ 「ロックバンドをやったことになったー(笑)。んで君、実家は？」

ムトウ 「ええと、実家には帰れないんです」

アビ 「帰れない！ まさかやくざに絡まれているとか危険な話？」

ムトウ 上ずった声で「ヤクザではないです」

アビ 「そっか、うーん、隠れる場所。どっかに廃ビルとかないかなあ(笑)」雑居ビルを見ます。

ムトウ 「もう僕には頼れるのは先輩しかいないですよ(泣)」

アビ 「なるほど、何とかしてあげたいけど、とりあえず警察に行けない理由を知りたいな」

GM となると【秘密】を知らないといけませんね。

アビ 特技(禁呪)を使って、ムトウ君の秘密を探ちゃうぞ……5、成功です。

情報獲得…アビ、ムトウの【秘密】を獲得。

ムトウの秘密…半グレ集団「マッドラット」元メンバー、殺人鬼に追われ隠れていた。ムトウらが遊びで《覚醒感染》の力を持ったクスリを注射した人物が凶暴化し、殺人鬼となった。メンバーは彼を残して殺されている。

アビ 「……ああ、ムトウ君。これはいけないね(溜息&ジト目)」

ムトウ 「いけないのはわかっています。ごめんなさいごめんなさいごめんなさい！」

アビ 魔ビルに結界を作るなどとか、考えないと。とりあえず準備の1つを行いたいと思います。サポースキル《人形作り》を使用、コスト3、ファンブル値が5なのでさらに秘儀《幸運A》を使用、成功しました。「なんかこの後は危なそうだからね」

※ アビがなぜ犯罪者となったムトウを守るのか？ キャラクター的にはかなりのお人好しであると同時に【秘密】があります。

アビの秘密…君はかつての友人「ムトウ」から助けを求められている。友人は犯罪集団「マッドラット」に所属していた。それはある能力者によって崩壊させられ、友人「ムトウ」は能力者によって追跡されている。

目的…友人「ムトウ」を殺さないこと。

◆1サイクル終了時

マスターシーン

GM 二階堂、君が調査した倉庫棟から離れようとするとき、先ほど見たムトウの姿が見えなくなっています。彼がいた倉庫には作業員の服、帽子、メガネが置かれ、他の私物はそのままに雑然としています。その中に君も知る品を見つめます「マッドラットのシンボル」を。

二階堂 ではそのシンボルを手に取り、口元だけ「ニヤリ」と笑います。